Awara News

あわらニュース vol.82

令和元年12月2日発行

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。

第7回市民公開講座を開催して

企画課業務班　専門職　星　大輔

去る10月19日土曜日、あわら市伊井地区にある伊井集落生活改善センターをお借りして第7回市民公開講座を開催いたしました。台風20号の影響で雨の降る中、たくさんの方が足を運んでくださいました。

今回は「認知症と運転免許」「訪問看護について」についての講演と、看護部オールスターズによる寸劇「認知症と共に」を行いました。認知症と運転免許については、高齢者による自動車事故の報道が大変多くなっていることから参加者の関心も高かったように思います。また、寸劇について、今だから言えますが、リハーサルを見た私は「本当に大丈夫だろうか…」ととても不安になっていました。そんな私の心配をよそに、本番では絶好調でした。参加者のみなさまにも楽しんでいただけたことと思います。

あわら病院では、今後も市民の皆様が地域で健康に暮らせるよう情報発信していきたいと考えています。ご意見ご感想、またテーマのご要望などいただければ幸いです。

神経発達障害の子どもたちのサポート

診療部長
川満　徹

当院小児科外来では、しばらく前から、発達の面で気になる所のあるお子さん達の診療を行っています。その多くは、幼児健診や市町の発達相談などを介して紹介されるお子さん達ですが、保護者の方が直接受診希望の電話を掛けてこられる場合もあります。

そのお子さんたちの示す特徴として、「言葉が遅い」、「集団行動が出来ない」、「会話が成り立ちにくい」、「自分の思い通りにいかないとパニックになり易い」、「じっとしていられず落ち着きが無い」などの訴えが多く聞かれます。診察、必要に応じた検査、及び経過などを踏まえて診断が成されていきますが、その中に、『発達障害』と診断される子供たちが一定数います。

発達障害は、現在はDSM-5(米精神医学会による精神疾患の分類と診断の手引き第5版)による診断基準を基に成される事が多く、正式には『神経発達障害(もしくは症)』という風に呼ばれます。その中に、自閉症スペクトラム障害(ASD)、注意欠如・多動性障害(ADHD)、限局性学習障害(SLD)などがあります。

こういった子供たちの発達上の問題は、時に気付かれにくい場合があります。特にまだ集団生活に入る前の子供たちや兄弟がいない場合の様に、その子と比較する子供が周りにいないと、或る程度特徴的な行動や対人反応を示していても、それが子供一般の特徴として捉えられてしまい、その特異性に気付かないという事も多い様です。

自然にその特徴が薄れて、生活上大きな問題も無く経過していく子供たちもいます。その一方で本当に問題となるのは、必要なのに、特別な配慮や対応が成されなかった為に、元々の問題に加え二次的な問題が発生して、その子の生活が困難と苦痛に包まれたものになっていくという場合です。

当院が、そういった子供たちのサポート体勢形成の一助になれたらと思います。

悪液質と慢性炎症—超高齢者における不明炎症の診療

院長・リウマチ科　津谷　寛

当院リウマチ科は老年科と協同して、「原因不明の微熱や血清炎症反応陽性を示すサルコペニア(痩せ・筋肉減少)」の超高齢者の方を、慢性炎症に伴う悪液質患者として積極的に診療を行っています。悪液質というと、がんの末期にみられる急激な痩せを思い浮かべますが、現在は、基礎疾患に関連して出現するサルコペニアとされています。その実体は、体内で作られる炎症惹起物質(炎症性サイトカイン)による全身の炎症状態と理解され、がんに限らず、非がん性の慢性炎症も基礎疾患として含まれます。

高齢者では、主として老化に伴う免疫応答の低下や制御異常により、ウイルスなどの潜在性感染症の再活性化、一部の自己免疫疾患のリスク増大、あるいは粥状動脈硬化や偽痛風に代表されるような自己炎症症候群の発症など、いろいろな種類の慢性炎症が起きやすくなっています。超高齢者となり、さらに慢性炎症が増強しやすくなると、全身倦怠、食欲不振、代謝異常が現れ、「不明炎症を伴うサルコペニア」として非がん性悪液質が発症してくるものと考えられます。

今まで、超高齢者の慢性炎症に伴う非がん性悪液質は、老化そのものとして経過観察されがちでしたが、この状況は生活機能から考えると大きな問題です。現在、当院では、好中球、マクロファージ、リンパ球などの白血球の活性化を指標に、血清学的診断、画像診断、薬剤による診断的治療を系統的に組み合わせて、微熱や血清炎症反応陽性の原因となる疾患の診断を行っています。さらに、非がん性の場合には、適切な薬物療法、栄養、リハビリを組み合わせて、悪液質の患者さんの心身、栄養状態、生活機能の回復に努めています。

地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

社会福祉法人　坂井来春会
介護老人保健施設　坂井ケアセンター

介護老人保健施設　**坂井ケアセンター**（定員 100名）
〒919-0537　福井県坂井市坂井町折戸1-58
TEL（0776）72-7373　　FAX（0776）72-7171

「坂井ケアセンター」は、介護老人保健施設として平成10年坂井市坂井町折戸地係で開所しました。

その後、利用者様の多様な福祉サービスニーズに対応するため、通所リハビリテーション、通所介護事業所、ショートステイ、グループホーム等を併設し、地域に密着した総合的な福祉拠点として、「快適生活みんなでサポート」を合言葉に、介護サービスの一層の充実に努めております。

こうした中、本施設では入居者の重度化傾向が顕著であり、より専門性を高めた介護サービスが求められております。今後の要介護認定者増加予測もあり、益々、国立病院機構あわら病院様をはじめ各医療機関との連携が重要になると考えております。

これからの人口減少時代に備え、より効率的な介護サービスも模索するなど、本法人では、より安全・安心な介護サービスを提供することに職員一丸となって取り組み、皆様に信頼される地域に密着した介護施設となるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

施設長　飯田 和質

【併設事業所】

- 通所リハビリテーション　坂井ケアセンター ……（定員30名）
- 通所介護事業所　さかいデイサービスセンター ……（定員30名）
- 認知症対応型共同生活介護　グループホームさかい ……（定員18名）
- 短期入所生活介護　ショートステイやすらぎさかい ……（定員18名）
- 居宅介護支援　坂井ケアセンター居宅介護支援事業所
- 訪問介護　坂井訪問介護二の宮センター

第73回国立病院総合医学会に参加して

業務班　松野 善治

令和元年11月8日（金）・9日（土）両日、名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）で行われた第73回国立病院総合医学会に参加しました。

当院からは、ポスター発表をはじめ、シンポジスト、座長など多くの職員が参加しました。当院と同様に全国各地の他施設からも、数多くのポスターなどの出展があり、診療や看護に関することから研究や病院運営に関することまで、内容は多岐にわたっていました。各会場は大勢の人で大いに賑わっていて、中でも、2日目のレスリング金メダリストの吉田沙保里さんの特別講演には立ち見が出るほどでした。

私たちは当院職員の発表を中心に聴き、他部門では普段どのような仕事をされているのか改めて知りました。また、他施設の事務職員の方々の様々な取り組みを拝見し、当院の業務における課題解決のヒントを得ることができました。

今回、知識を深め、様々な職員との交流の機会を得ることができ、若手職員として大変貴重な経験をさせていただきました。今回の経験を今後の業務に活かしていきたいと思います。

外来担当医表

（令和元年12月2日現在）

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	津谷 寛	津谷 寛	見附 保彦	見附 保彦	森下 哲司
	小児科	川満 徹＊	川満 徹＊	川満 徹＊	湯浅 光織＊	川満 徹＊
専門	リウマチ			津谷 寛	津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正＊	大槻 希美	
	生活習慣病			鈴木 友輔(第2･4)		
	老年					桒田 敦(第1･3･5)
	神経			佐々木宏仁(第1･3･5)		
	循環器	見附 保彦	見附 保彦			
	外科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整形外科	吉谷 純哉				
	眼科				吉岡 達也＊	
	皮膚科		若原 真美			若原 真美
	地域ケア	鈴木 友輔				
	禁煙外来	見附 保彦	見附 保彦			

● 受付時間8:30～11:30　● 黄色枠は予約制　● ＊印は午後診察　● 休診日／土･日･祝日･年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日･金曜日の午前中（受付時間8:30～10:30）です。

※神経内科の診察は、第1･3･5水曜日（受付時間8:30～11:30）です。

感染管理便り

感染防止対策室　桒田 由香利

今年はラグビーワールドカップが日本で開催され、大いに盛り上がりました。来年はいよいよオリンピックが開催され、多くの外国人が日本を訪れます。人の往来が活発になるとそれに伴う病気なども報告されます。飛行技術の進歩により世界中を短時間で行き来できるようになったことから、短時間で多くの人が感染症にかかるリスクも増えています。昨今は地球温暖化の影響か、海を越えて日本に入ってきた病原体や病原微生物などの輸入感染症の発生も報告されています。大げさに怖がる必要はありませんが、地域での感染症の流行状況や注意喚起などの情報に耳を傾け、必要時には予防接種を受けるなど、正しい知識を取得し確実な対策を実施することは重要です。オリンピックを万全の体調で観戦できるよう、自分の体を十分に労り、体調管理に努めていきましょう。

独立行政法人 国立病院機構 あわら病院
福井県あわら市北潟238-1　TEL.0776-79-1211（代表）FAX.0776-79-1249
〈地域医療連携室〉　FAX.0776-79-1261
URL http://www.awara-hosp.jp/

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液･腫瘍内科、リウマチ科、神経内科
老年内科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科
【病床数】172床
【教育】日本内科学会認定教育関連施設、日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より（5km）
乗合タクシー（デマンド交通）［事前予約が必要］

JR北陸本線芦原温泉駅より（10km）
乗合タクシー（デマンド交通）［事前予約が必要］